

地域清掃活動お疲れ様でした。この活動は、普段お世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを表すとともに、奉仕活動の意義についてしっかりと考えることを目的に行われています。人から何かをもらうことは確かに嬉しいことです。しかしそれ以上に、人のために尽くすこと、人の役に立つことを行うことに喜びや充実感を感じることは、人生を豊かにすることにもつながります。自分に来ることは何かをしつかり考え、実行できる人に成長してほしいものです。

ところで、先日、風間部第一期生の落合優美さんという方から手紙を頂戴しました。現在、愛媛県松山市にある国立病院機構四国がんセンターで、緩和ケア内科および精神腫瘍科の医師として活躍しておられます。緩和ケア内科、精神腫瘍科という診療部門はあまり聞き慣れない名称ですが、ここでは、がんの患者さんたちの身体的・精神的な苦痛を和らげるための医療が行われており、落合さんはがんの告知を受けた人々の様々な痛みに寄り添う日々を過ごしておられるそうです。

落合さんは、いわゆる進学校と呼ばれる高校への進学ではなく、新設されたばかりの単位制高校である本校風間部を選択しました。進学校での朝夕の補習に明け暮れる生活ではなく、自分の興味があることを自主的に学びたいという気持ちが大きかったからというのがその理由だったそうです。

今年度は、本校風間部が開設されて二十年目の節目の年にあたります。平成五年に風間部は誕生しました。制服を定めずに自主自律の精神を大切にし、各自の興味や進路希望に応じて科目を選択して学習するという校風は今までになく高校として注目を浴びました。その第一期生である落合さんは、風間部の伸び伸びとした環境の中で、様々な背景の級友たちと共に充実した日々を過ごすことができたとおっしゃっています。

顧みて皆さんはどうでしょうか。充実した日々を過ごせていますか。少人数授業や進路に応じた科目を選択して深く学ぶことが出来るという

風間部の特色を生かしていますか。制服を定めていないのは、学びの場にふさわしい服装とは何かを自覚するためだということが認識できていますか。

前期を終えるにあたって、風間部を選択した原点に戻り、風間部だからこそできるこれらの特色を大いに生かして、日々の学校生活がさらに充実することを期待しています。

さて三年次生のみなさん、まさに人生の岐路にたっているところです。特に就職を希望している人の中にはすでに就職試験も終わり、その結果が届いている人もいます。現実の厳しさをかみしめている人もいることでしょう。

そこで改めて伝えたいことがあります。私は、今年度皆さんに配付されている「進路のしおり」に『人生の最大事、失敗に学ぶ』というタイトルで次のようなメッセージを送りました。『人生の最大事は仕事に就くことです。しかし、人生は机上のプランどおりにいくものではなく、途中で何度も軌道修正をしていかなければならないし、それを乗り越える精神的な強さも必要になります』『なにかあることを試み、そして失敗する人間のほうが、なんにもしないで成功する人間よりどれだけ良いかわかりません。失敗に学ぶことも大切なのです。』

就職試験に一度や二度失敗しても深刻に考える必要はありません。むしろ自分を成長させてくれる絶好の機会だと思ってください。人間は失敗することで学び、成長していくものです。どうか自分の可能性を信じて挑戦し続けてください。

一、二年次生も人生の最大事に直面する日は遠い先の話ではありません。わずか四日間ですが、ほんの少しでも自分と向き合う時間を持ち、自分にふさわしい人生を歩むにはどうするか、何が必要かなどについて考える秋休みになることを期待して私からの話を終わります。